

食道・胃・十二指腸内視鏡検査を受けられる方に（説明書）

<目的・方法>

腹痛や貧血の原因を調べ、潰瘍、ポリープ、癌などを診断するために行う検査です。

口から内視鏡を挿入して食道、胃、十二指腸下降部までの観察と撮影を行います。

その際、生検（組織の一部を採取）して組織診断を行い、色素を散布して、より詳細な観察を行うことがあります。

<ご注意>

内視鏡検査の前にはまず、のどの麻酔を行います。その後、消化管の動きを抑えるための注射を行うことがありますが、薬の反応で、動悸や目がチカチカしたり、口が渇いたりすることがあります。ごくまれにショックを起こすことがありますので、薬のアレルギーや体調に異常のある方は事前にお申し出下さい。検査終了後、目の焦点が合わず、眠気を催すときには、事故を起こす恐れがありますので、自動車、バイク、自転車などの運転は絶対にしないで下さい。

スキルス型といわれる胃癌は内視鏡検査では診断が困難な場合がありますので、症状が続く場合は担当医に早めに申し出てください。

<偶発症>

内視鏡検査後、とくに生検やポリペクトミーをした場合に、まれに出血や穿孔などの偶発症が起こることがあります。その発生頻度は全国集計（2003～2007 の5年間）で0.005～0.1%（手技によって異なります）、死亡率は0.0002%（100万人に2人）でした。

万が一、偶発症が起きた際にはそれに対する最善の処置、治療を行います。出血に対しては輸血が必要となる場合もあります。入院や入院期間の延長、緊急の処置、手術が必要となる場合がありますが、あらかじめご承知おきください。

また、宗教上の理由で輸血ができない場合にはお申し出ください。

以上、説明に納得された方は同意書にご署名の上、ご提出ください。

また、同意書を提出された後でも検査を中止することはできますので、いつでもお申し出ください。尚、ご不明な点がございましたら医師または看護師にお尋ねください。

<鎮静剤の使用に関して>

のどの反射が強い方や、以前の内視鏡検査で大変苦しかった方は、鎮静剤を使用し、眠くなった状態で検査を受けることをお勧めします。検査後30分～1時間程度、鎮静剤が覚めるまでベッドでお休みいただきます。

鎮静剤を使用した場合、呼吸抑制や血圧低下がおこる場合があります。酸素投与や酸素飽和度の測定などを行って安全に検査を施行致しますが、重度の合併症が起こることがあります。自動車、バイク、自転車などの運転は終日できません。

連絡先

・8:30～17:00 千住・胃と腸のクリニック TEL 03-3882-7149